

庭園

学・習字・算数を学ばせたり、老若男女が参加できる講演会を開いたりした。さらに月に1度、熙は同園に子どもや領民60人を招き、一緒に心学の講義を聴講していたという。日本各地には大名庭園が数多く存在するが、隠居したとはいえ殿様と領民の「共学」の場とされた庭園はここだけだろう。「御花畑絵図」を巡るエピソードからは、熙が文化的で領民を大事にする名君だったことがうかがえる。

（柿野朋之）

＝随時掲載します＝

メモ

9月1～30日まで特別展示する。問い合わせは平戸市鏡川町の松浦史料博物館（電0950・222・22236）。



日本DX大賞の業務変革部門で優秀賞を受賞したヒューマングループの南海梨恵子社長（左）と内海暢邦取締役（右）。

本務変革部門で優秀賞

初 アプリ開発で効率化

自動車教習所を展開する佐世保市早岐3丁目のヒューマングループ（南海梨恵子社長）が、優れたデジタルトランスフォーメーション（DX）の事例を表彰する「日本DX大賞」の業務変革部門で優秀賞に輝いた。県内企業・団体が受賞するのは初めて。

同社は、プログラミング知識がなくてもウェブサイトを構築できる「ノーコードツール」を活用し、社内でも使用する基幹システムを再構築。1年で100人

佐世保南高 生成AI研修会

教職員の業務へ活用を推進

佐世保市日宇町の県立佐世保南高（舟越裕校長、692人）は19日、生成AIを業務に活用する教職員対象の研修会を開いた。県教育AI推進アドバイザーの野上陸さん（26）が「こつをつかむと、専門知識がなくても活用できる」と教育現場での利用のポイントを伝えた。

同校探究推進部が企画。県内各地の高校にも受講を呼びかけ、約40人が参加した。同アドバイザーは県教委が本年度に新設。野上さんは地域事業者のマーケティング支援などを手がける六大陸（青森市）

の社長を務め、本県教育分野でアドバイザーとしてAI活用を支援している。

生成AIはテキストや画像、動画などさまざまなコンテンツを新たに生成できる人工知能。野上さんはコンテンツを新たに生成できる人工知能。野上さんはコンテンツを新たに生成できる人工知能。野上さんはコンテンツを新たに生成できる人工知能。

各種文章やテスト問題の作成、採点への活用を勧め「生徒の間違いに対応した宿題を出すことができる」などと利点を強調。一方、情報漏えいや誤情報の生成などのリスクを指摘した。

文書作成の演習も交えて実施。「教育現場で可処分時間を増やして生徒に向き合い、よりよい人材を育成してほしい。AIが当たり前の時代。正しく活用できるよう、教えるから、よりよい人生に導く立



生成AIの業務への活用について研修する教職員。佐世保南高。

場になってほしい」と要望した。

探究推進部主任の吉野聖司教諭（47）は「業務を縮減し、残った時間を有効的に使うことができる。生徒に指導する知識も必要。便利さが分かり、関心が高まった」と語った。

（荒木勝郎）

長崎新聞社

TRANBI
Innovation Platform



が決まらない 事業の先行きが不安

三山太目

長崎新聞社の催し



足形土製品



模写環状瓶

家形埴輪と
圓形埴輪



呪符木簡



胡座する男子埴輪



広形銅戈鋳型



承台付銅蓋鏡



男子埴輪

佐世保
初開催!